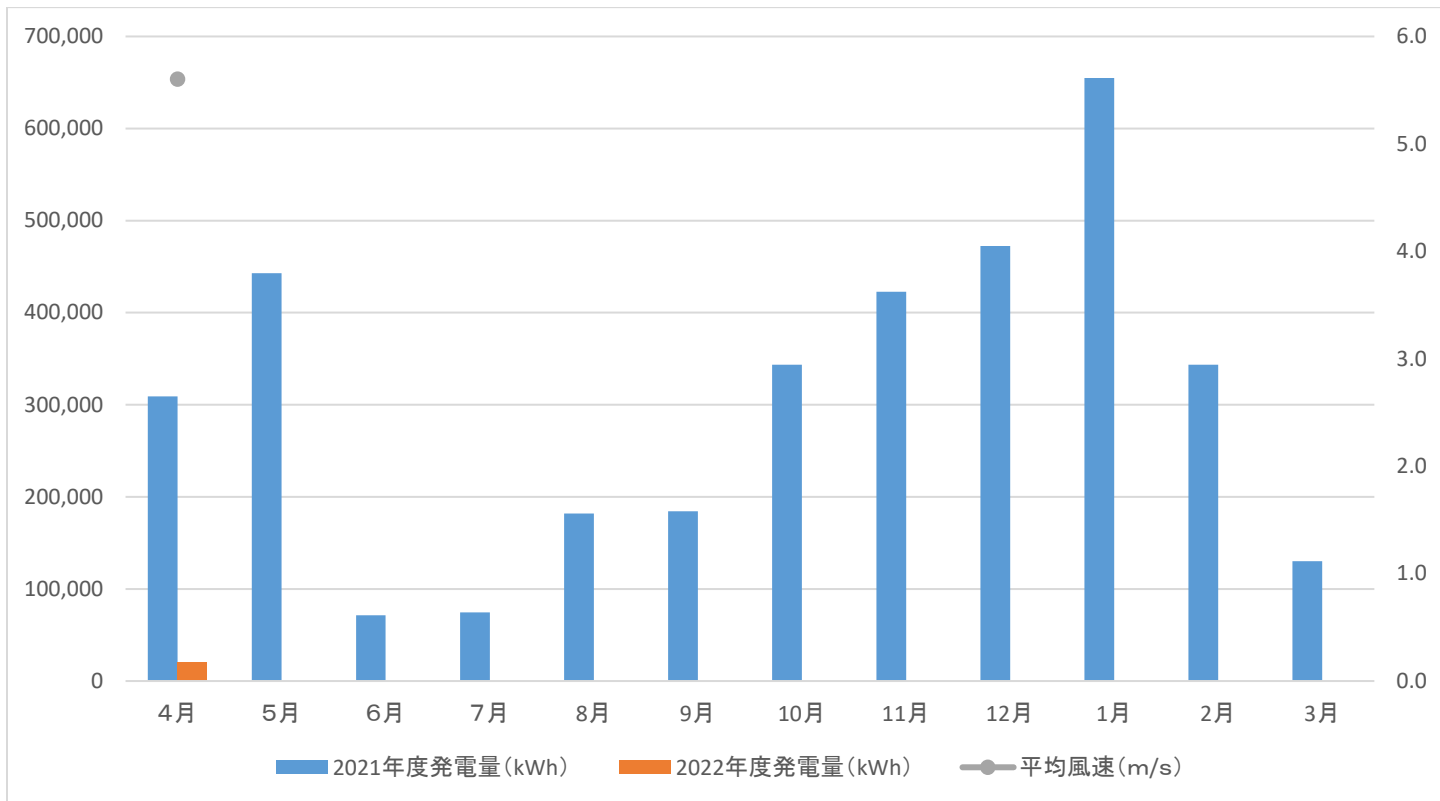


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 2022 年度発電実績



4月度運転状況について

- 風況は前年と同じ実績でした。
- 増速機の損傷が進行しないよう、引き続き風速と風車の状態をモニタリングしながら運転を継続しておりましたが、4月7日にこれまでより状況が悪くなったという警告アラームが発生した為、ドライブトレインの健全部位への波及を防止する目的として保安停止をしました。増速機交換工事が終了するまで保安停止とします。
このため、4月の発電量は前年比6.5%と低くなりました。
- 風車の10.0年次点検を実施しました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	20,059	5.6	1.4
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

グリーンファンド秋田理事会報告

5/11、2021年度第5回グリーンファンド秋田の理事会を開催しました。

主な議案は、2021年度事業報告と決算報告、2022年度の事業方針と予算案、生活クラブエネルギー事業連合への業務委託について、夢風の保安停止と増速機交換工事実施計画、「地域の脱炭素化と地域循環経済」フォーラム開催計画案です。

理事会で承認された2021年度事業報告と2022年度事業方針は、第14期定時社員総会への提案事項となります。夢風の増速機交換工事は、到着が遅れていた新しい増速機が5月初めに秋田港に到着しました。5/9から工事を開始しており、6/20終了の予定で実施します。

生活クラブでんきスイッチングキャンペーンスタート集会に参加しました


事務局長 鈴木伸予

5/7、生活クラブ生協連合会主催でオンラインで開催された「生活クラブでんきのスイッチングキャンペーンスタート集会」にでんきの生産者として参加しました。

スイッチングキャンペーンスタート集会は、第1部として立教大学教授 金子勝氏、東北芸術工科大学教授 三浦秀一氏、認定NPO法人環境エネルギー研究所所長 飯田哲也氏の3人の方から基調講演をいただき、生活クラブ連合会 村上彰一専務理事よりメッセージを頂きました。


第2部は、生活クラブでんきの発電所からのメッセージで、グリーンファンド秋田も発電所の一つとして報告させていただきました。生活クラブ風車「夢風」の電気は全て、(株)生活クラブエナジーに売電し、「生活クラブでんき」として、組合員や事業所に届けられています。風車の再エネ価値は、生活クラブでんきの「再エネ100%プラン」に活用されています。

生活クラブでんきは、ただ再生可能エネルギーで発電しているだけでなく、発電している地域とつながっている事が特徴です。スタート集会では、再エネの生産者が17名も登場し、それぞれの発電所や地域のこだわりなどのメッセージをいただきました。生産者の顔が見え、生活クラブでんきへの親近感が高まりました。



一般社団法人グリーンファンド秋田は、生活クラブ東京、神奈川、埼玉、千葉と、NPO法人北海道グリーンファンド、(株)市民風力発電で構成する、生活クラブ風車「夢風」の事業目的法人です。

【生活クラブ風車 夢風】
2012年3月 稼働
建設地： 秋田県にかほ市芹田
出力： 1990 kW
発電電力量：473万 kWh (年間)
(約1300世帯分)
CO2削減量：2,104 t (年間)
(2020年度の生活クラブ全体のグリーンシステムによる削減量2,733 t)
タワー高さ：80m (ビル20階の高さ)
ブレード径：80m
売電先：(株)生活クラブエナジー



149:37

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会開催報告

5/13、2021年度第3回にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会をにかほ市象潟本庁舎で開催しました。

はじめに、にかほ市副市長の本田雅之共同代表よりご挨拶を頂きました。続いて、にかほ市の参加者が人事異動で変わっていることから、自己紹介を行いました。続いて、生活クラブ神奈川専務理事の半澤彰浩共同代表を議長に、議事審議を行いました。

議案は、生活クラブ風車「夢風」の運転稼働報告、2021年度連携推進協議会活動のまとめと2022年度活動方針案、「地域の脱炭素化と地域循環経済」フォーラムの開催計画案、にかほ院内風力発電の稼働時期変更報告、「にかほ市自然エネルギーによるまちづくり基金」執行状況報告、ゾーニングマップに基づく条例制定に向けた進捗報告、です。

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会主催で7/24に開催する「地域の脱炭素化と地域循環経済」フォーラムでは、第一部の講師を国谷裕子さん、第二部のパネルディスカッションへは、にかほ市の市川雄次市長に登壇いただくことを含め開催計画を承認しました。

にかほ市のまちづくり基金の用途について共有しました。花いっぱい運動の花苗や肥料は、にかほ市内の農家より購入しています。お金が地域で循環するように心がけているとのこと。また、基金を使って中学校の生徒用の机・椅子の購入をしていることが生徒にわかるように教室にポスター（右図）を掲示しているとのこと。



写真：前列左から、生活クラブ千葉常務理事・山崎倫一、生活クラブ常勤理事・大石冬刀、にかほ市農林水産部長・池田智成、にかほ市建設部長・原田浩一、後列左から、グリーンファンド秋田・鈴木伸予、生活クラブ埼玉専務理事・須長雅和、生活クラブ神奈川専務理事・半澤彰浩、にかほ市企画調整部長・佐藤喜仁、にかほ市総合政策課長・高橋寿、にかほ市総合政策課・高橋潔。

※本田副市長は次の予定の為、写真には写っていません。

にかほの特産品の共同購入に取り組んでいます

夢風・秋田県特産品

今回は、夢風ブランド「はたはたおいる漬け」に加え、秋田県の特産品のなかから「塩漬けハタハタの燻製」と「甘酒」を紹介します。

はたはたおいる漬け
ご飯とおかずにも
はたはたおいる漬け

材料(2人分)
はたはたおいる漬け…20g
醤油…1握り
卵(黄身)…1個
①(漬物)…小さじ1、牛乳…大さじ1
②(漬物)…360g
大葉(1cm角切り)…4枚
真塩…少々

作り方
①卵の黄身に①と②を混ぜ合わせる。
②フライパンにはたはたおいる漬けのオイル(分量外)小さじ2を熱し、卵液を流し入れる。半熟状にふんわり火を落とし取り出す。
③卵白にご飯、はたはたおいる漬け、大葉、②を加え混ぜ、真塩を手に取りおにぎりを作る。

他にも
はたはたおいる漬けの
アレンジ料理を
紹介しています!

●組合員のおすすめポイント
生活クラブ 加藤 結子さん
意外にもご飯との相性が抜群。オイルにハタハタの旨みが出て、新しいおいしさです。併にするのもおすすめ。

おつまみにぴったり!
塩漬けハタハタの燻製

131571
はたはたおいる漬け
168g
619円(税込669円)
製造元: 三浦米太郎商店

140295
塩漬けハタハタの燻製
20g
500円(税込540円)
製造元: 三浦米太郎商店

生産者の
おすすめポイント
はたはたおいる漬け
国産のハタハタを、遠く内蔵を除去して塩漬け、乾燥させ、仮チップで燻製にしたものをハーフオイル漬に、手作りで丁寧に作っています。オイルオイルとならぬ塩漬は生活クラブ指定のもの、オイルごとたっぷり漬け込みください。

塩漬けハタハタの燻製
そのままマヨネーズなどを添えてお酒のおつまみに、またオープントースターなどで20~30秒温めると、脂がじんわりと出てさらにおいしくなります。中骨も除去しているので安心して食べられます。一口サイズにカットして、お茶漬けにしてください。

米と米麴だけでつくった**無添加甘酒**

生産者の
おすすめポイント
佐々木 久悦さん
原料は米と米麴。わずかな塩のみ。米を炊くところから4日はかけてつくる昔ながらの甘酒です。夏は冷やして飲むのがおすすめです。最近では冷やして飲むのがおすすめです。砂糖代わりにヨーグルトに入れたり、凍らせてシャーベットにしたりと、アレンジも楽しめます。ぜひお試しください。

131580
無添加甘酒
350g
363円(税込392円)
販売元: 四つ葉ネットワーク

ノン
アルコール

生活クラブ首都圏4単協では、夢風ブランド開發生産者連絡会の会員の材を中心に、にかほの特産品の共同購入を行っています。

班個配の6月1回企画では、三浦米太郎商店の「塩漬けハタハタの燻製」と四つ葉ネットワークの「無添加甘酒」を取り組みます。

三浦米太郎商店専務の三浦大輔さんの「塩漬けハタハタの燻製」のおすすめは、「そのままマヨネーズを添えてお酒のおつまみに。オープントースターなどで20~30秒温めると、脂がじんわりと出てさらにおいしくなります。中骨も除去しているので安心して食べられます。」とのことでした。

四つ葉ネットワークで販売している無添加甘酒を製造している佐々木麴店代表の佐々木久悦さんのおすすめは「原料は米と米麴、わずかな塩のみ。米を炊くところから4日ほどかけてつくる昔ながらの甘酒です。最近では冷やして飲めば熱中症対策にもなると注目されています。砂糖代わりにヨーグルトに入れたり、凍らせてシャーベットにしたりと、アレンジも楽しめます。」とのことでした。

コラム 東北電力ネットワークが再エネ出力制御実施

電気の発電量がエリアの需要を上回る場合には、まず火力発電の出力の抑制、揚水発電のくみ上げ運転による需要創出、地域間連系線を活用した他エリアへの送電を行います。それでもなお発電量が需要を上回る場合には、バイオマス発電の出力の制御の後に、太陽光発電、風力発電の出力制御を行います。これは「優先給電ルール」と呼ばれ、需給バランスを維持するための手順としてあらかじめ法令等で定められています。

東北電力ネットワークは、太陽光や風力など再生可能エネルギー発電事業者に対して出力の抑制を要請する「出力制御」を4月に初めて実施しました。九州電力エリア以外の出力制御は初めてです。生活クラブ風車「夢風」も4/17、5/4の8:00~16:00に発電停止の指示がありました。(夢風は保安停止をしていたため影響はありませんでした。)

春季は、太陽光の発電量が多くなる一方で、昼間の電力需要が減少する為、出力制御が実施される可能性が高く、多くの企業が休みになる4月末から5月初頭の大型連休には需要がさらに小さくなり、さらに出力抑制が実施される可能性が高くなります。

しかし、再エネ最優先ルールに沿って対応すれば、いずれも出力抑制は十分に避けられた可能性が高く、前例づくりのための「お試し出力抑制」の可能性が疑われるとの意見もあります。国は第6次エネルギー基本計画で「再生可能エネルギー最優先」をうたっています。脱炭素とエネルギー自給拡大が待たない状況に対して、太陽光と風力は最大・最速の対応策であるにもかかわらず、このようななし崩しの出力抑制が広がる現状は、真逆の対応だと思えます。